

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	浜松学院大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ハママツガクインダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	長期企業内留学
	学部・研究科等名	現代コミュニケーション学部
	担当教職員名・役職	津村公博 現代コミュニケーション学部 地域共創学科 教授佐藤克昭 現代コミュニケーション学部 客員教授松本隆史 学生支援グループ職員
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	1
	受入企業等数	1
	受入企業等名	株式会社JTB中部
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	フィールドワークとして、実際に観光名所を回った。大河ドラマ館に足を運んでくれた地方のお客様が浜松の名所を回ってもらえるよう、観光マップを作成した。その他、大河ドラマ館のチラシ、モデルコース表、ドラマの配役一覧などの書類をファイリングし封筒に入れ、東海地方を中心とする約60~70社の旅行会社へ送付した。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで与えられる単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	地域共創学科3年次の前期に、専門教育科目として実施している。産学官連携による地域人材育成を目的とした実践的教育プログラムであり、組織の中での仕事の仕方やコミュニケーションのあり方を理解し、キャリア形成能力や職業意識を育成する。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している,2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全5回の事前学修の中で、準備や心構えを初めとして、長期企業内留学の意義、実習先企業及び業界研究、長期企業内留学を実施することの効果を外部講師からご講義いただく、等の学修をしている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	成果報告会の準備を通じて、事後学修を行う。その後、企業担当者を招いての成果報告会を実施。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	事前学修期間中に担当教職員との複数回面談を重ねている。また、インターンシップ中、一週間に一度を目安として登校日を設けている。学生は留学の状況を報告して、教職員からは受講者へ助言をする等、大学全体でサポートしている。教職員は留学先企業への訪問を3回実施している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている,2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている,3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	

	4-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	経済産業省が提唱する「社会人基礎力」の「3つの能力/12の能力要素」をスコア化して定量・定性評価を実施している。留学の前後で調査を行い、今後の展開や課題の検討に役立てている。
要素⑤	5-1. 一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2. 該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2. で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間17日間
	5-2. で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2. で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2. 以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	株式会社JTB中部において、8月の1ヶ月間、お盆休みを挟んで14日間のインターンシップを行った。更に、期間中に登校日を3日間定めた。
要素⑥	6-1. 大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2. 該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2. 以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	留学先企業は、学生の希望業種・職種をもとに検討し、相応しい企業に打診した。事前学修では、学生を含めて留学先企業との打ち合わせを実施し、協働してプログラムを設計した。また、外部講師を招き、長期企業内留学の意義等を学修した。成果報告会では、受け入れ企業から講評をいただいた。
	7. 上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.hamagaku.ac.jp/hgu/employment/long-stay/
問い合わせ先	大学等名	浜松学院大学
	担当部署名	教務グループ
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	053-450-7000
	メールアドレス	kyoumu@hamagaku.ac.jp